

令和4年度第1回（第55回）地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会

1 日 時 令和4年7月20日（水）13：30～16：00

2 場 所 オンライン開催

3 内 容

（1）産業技術センターから第4期中期目標期間に見込まれる実績及び令和3年度実績について説明

（2）質疑応答

（○：委員の質問）

○今、先ほどお使いの資料類は、後でデータをいただけるのでしょうか。パソコンの画面でじっと見ていると追えなかったところが結構あって、ちょっと大変だったので、ちょっとそこら辺の資料を追加で送っていただいて、よく眺めてみたいなというのがあります。

→（産業技術センター）

・今の御質問についてですけど、資料については企業名などが入ってしまっていて、その辺、よく確認してから、ご提供させていただきます。

○第4期の見込評価ですが、見込みの数値の算出方法について教えていただけないでしょうか？

→（産業技術センター）

・見込数値の算出ですが、令和3年度までの実績を3年間の実績として令和4年度の計画KPI値を足した数字を書いています。令和4年度分はちょっとやってみないと分からないので、計画の数値を足しているということになります。

○令和4年度で、今すでに、7月なので分かっている部分の数字がありますよね。その数字も後から、分かっているところでいいですけど、7月ぐらいまでで。その辺りの数字も教えていただければありがたいですがいかがでしょうか。

→（産業技術センター）

・数値的なことは7月までの分も把握していますので、お出しすることは可能です。

○各個別項目への質問というより、全体に対しての質問なのですが、報告いただいた成果、それぞれ一つ一つテーマ名も非常にレベルが高いなというのは感じました。しかし、産技センターさんの正味の寄与分というのがどういうところなのかがちょっと分かり

にくいというか、説明だけ聞いていると全てやられているように思ってしまうので。そうすると、「こんなに成果が出ているのか・・・」と、逆に思ってしまうんですけども。私どもは、企業の中での研究所ですが、成果報告のときに気を遣っているのは、たくさん成果が出ていますと言うと、逆に「じゃあ、リソースが余っているんじゃないか」と言われたりするので、バランスを考えているところがあります。まだ途上ですがというのをちょっと織り込んだり、あるいは、まだ課題が残っていると、だから強化したいというような言い方をします。そうしないと、人材を今度強化して増やしたいというときに、なかなかうまくいかないというのがあったりするんですけども、その辺はどんなふうにお考えなのかをちょっと聞かせていただきたいというのが質問です。

→（産業技術センター）

・アドバイスをありがとうございます。おっしゃるとおり、我々のところでもまだまだ足りないところとか、課題がまだ解決できていないというような事例もあります。ただ、我々、産業技術センターの仕事というのが、県内企業さんの課題を解決していくということが一番大事な仕事になっていまして、基本的には県内企業さんと一緒に考える。さっき言われたように、全て我々が全部やったわけではなくて、県内企業さんが努力されていて、そこの足りないというか、分からないところを我々考えて提供して一緒に開発するというのが基本スタンスです。今回紹介させていただいた事例というのは、かなりの数が企業さんと一緒になって考えた事例になっています。一部、我々のほうが技術シーズを提供するというのもありますが、多くは大体、企業さんと一緒に考えるという事例になると思います。その中でうまくいかなかったこととか、ちょっとうちでは難しかったかなとか、今後の課題にしようとかというのがあります。その点はちょっとまた職員のレベルアップをすとか、いろんな職員がいて、ある程度レベルがある職員もいれば、これからという人もいるので、職員研修とかいろんなことをやって、自分たちのスキルを周りの職員に伝えていくとかするようなこともやっています。ただ、それで万全かいうとそうではなくて、やっぱり外部の意見を聞いたりとか、助けを聞いたりとか、そういうのも必要になってくると思います。今の体制で十分かというのと十分ではないとは思っていますので、その点は何かで補っていく必要はあるかなと考えています。

○自己評価のことですが、どうしても「こんなにやったのだから当然Aだ」ということでつけられるのはよく分かるのですが、「A」というのは計画を上回って進んでいることですよね。「B」は決して悪い意味ではなくて、計画どおり進んでいるということで、どの項目も「A」で計画以上にほとんど進んでいるというのが自己評価されている。ちょっと全部「A」でとなってくると、どのレベルが計画レベルで、どこがどこまで上回って進展していると判断して「A」というふうに自己評価されているのか、本当に全部計画以上なののでしょうか。ちょっとその辺りが全般にわたって分かりにくいと思ったのですが、その辺いかがですか。

→（産業技術センター）

・中期目標どおりに普通にやっていますよという「B」ではなくて、もう少しセンター独自にいろいろ考えながら、こういう取組をしたらどうだろうとか、こういう技術支援をさらに突っ込んでやろうとかと工夫しながら取り組むなど、かなり発展させて積み上げてきたという自負がありますので多くの項目で「A」評価という形で出させていただいています。もちろんグローバルな活動とか、なかなかそこまで到達していないというものについては「B」評価をさせていただいているところがございます。

○毎回、いつも予算の運用ということで、自己資金の確保、自己収入の確保ということを非常に気にかけて拝見しているのですが、今回も、外部資金の獲得は目標をはるかに上回っているということで、大変評価できるかなというふうに思っております。以前、西部の研究所のほうに伺いましたのが、そのときに施設の老朽化が非常に気になっておりまして、今回、施設設備ということで、老朽化した保有機器についてのいろんな契約も考えていらっしゃるということではありますが、この時代になって、新しい機器の導入はもちろんだとは思いますが、もともとの施設自体の老朽化が非常に気になっているのが、何かトピックスとしてきれいになったとか改善されたとかというふうなことはございましたでしょうか。

→（産業技術センター）

・御質問があった件については、一応、今、実はルールとしては500万以上の大きな修繕がかかると県のほうに予算を要求するというようなルールがあります。今年度は食品開発研究所（境港）の本館の屋上の工事はすることにはなっております。ただ、今おっしゃっていただいたとおり、境港も含めて施設が大分古くなってきて

いるので、やっぱり修繕計画を立てないといけないだろうと考えておりました、今年度、今、施設の外壁とかいろんなものの調査というのを設計会社にちょっとお願いしております。それで、どのぐらいの年度で改修をしていかなければならないか計画を今年度中に立てることにしております。そ

○事業の結果についての報告を見させていただきまして、非常に分かりやすく、よくやられたというか、いろんな面白い例がいっぱいあるなど改めて思いました。皆さんが言われたいろいろ御意見はあったんですけど。K P I は、順調に進んだんだなと思いつつながら、依頼試験については、令和3年度は1, 534件、令和2年は1, 608で、令和1年度の1, 902件、令和2年度は1, 608件、令和3年度も1, 534件ということで、減っている感じがするところです。この傾向については、特に一過性のものなのか、あるいは、いろんな事情があるのかというようなところがもしございましたらお教えいただければと思います。

→（産業技術センター）

・依頼試験が減っているという話ですけど、実は、依頼試験は、我々が全部やるとすごく大変で試験によっては1日、2日ぐらいかかる試験もあります。そこで、機器利用というか、機器の使い方を教えてあげて、分析の仕方を教えてあげて、企業さんが自分でやってもいいものは自分でやってもらうようにというふうに、機器利用に誘導しているというのをずっとやってきています。そのこともあって、減っている部分もあると思います。

⇒質疑応答終了後、産業技術センター退出

・評価方法、評価スケジュールの確認について、事務局から案内。

（3）第5期中期目標について

⇒第5期中期目標策定へ向けた今後のスケジュールについて、事務局から案内。

（以上）